

【施策評価調査】

施策名	2-2-1	地域密着型介護施設の整備		86	高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1、子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2、要支援要介護にならない予防策 3、地域包括支援センターの有効活用 4、高齢者の社会参加と学習機会の提供 5、安定した生活支援 6、地域協力の体制づくりを構築する 当施策は、1.の観点から先進事例の情報を収集し、老後の安心と住民にとって利用しやすい多目的福祉施設を整備します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部健康福祉課	担当 リーダー	社会福祉担当 赤羽一夫		要介護者の様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を提供しながら在宅生活を支援することができる小規模多機能型居宅介護施設*を整備します。さらに、認知症高齢者を対象とした認知症対応型グループホーム*を整備します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	核家族化の進行や扶養意識の希薄化、共働きの増加等により家族における介護力の低下などから、介護施設を利用する方が増加するなど、高齢者をめぐる状況も大きく変化していることから、将来を見据え、要介護者のみならず全ての町民が利用できる多目的な複合施設の整備が求められています。				

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：小規模多機能型居宅介護施設数(箇所)	平成16年度	計画	1箇所				
		実績	0箇所	0箇所	1箇所		
指標：認知症対応型グループホーム数(箇所)	平成16年度	計画			1箇所		
		実績			1箇所		
指標に関する特記事項	社会福祉法人幸世会が建築する、小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型グループホームの複合施設が平成21年3月末に完成した。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	7,500,000	0	48,110,000		
	決算	0	0	48,066,000		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
地域密着型複合施設整備費	当初 48,110,000	整備施設数	A	施設整備に係る補助金を社会福祉法人幸世会に交付し、20年度末に施設が完成した。			
	決算 48,066,000	1箇所 / 1箇所		今後の方向性(自己評価)	終了	今後の方向性(総合評価)	終了
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	介護保険第3期計画における地域密着型介護施設(小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型グループホーム)整備が完了した。 地域密着型介護施設の利用は、町民に限られることから、住み慣れた地で「通所、訪問、泊まり」を組み合わせたサービスを受けることができる。	今回整備した地域密着型介護施設(小規模多機能型居宅介護・認知症対応型グループホーム)の利用状況をみながら、次期整備を検討する。
総合評価	■ 総合評価 ■ 施設が整備されたことを評価する。 ただし、町として補助を行ったことから、整備後の事業者の運営状況については、把握していくとともに、状況によって利用の制限を見直すなど柔軟な対応を検討すること。	